



夕刊
発行所
神戸新聞社

「私、これは買わへんわ」

「私も。このデザインの意味が分からへん」
相変わらず姉も妹も手きびしい。

私は企業のブランドづくりやショッピングプロデュースの仕事をしている。3姉妹の次女として神戸で育ち、だんらんといえは、母も参加して女4人による何時間も続くおしゃべりだった。学校の話、おしゃべりの話、恋愛の話、世の中の話…。今思えば、家の中で毎日マーケティング会議をしていたようなものだ。

ものづくりの最後の決断は、自分の直感を信じてきた。ただ、今でも姉妹に開発中の商品について意見を求めることがある。いつもシンプルかつ貴重なヒントを言っ

おしゃべりの中から

——星加ルリコ

くれる。

こんなコミュニケーションが私の原点だ。会社のスタッフとも、おしゃべりの中から発想が生まれる。また、20代から70代の多世代、多分野の友達との交流も宝物だ。みんなが共感できる話題から会話がスタートし、お互いの感動を共有しながら自分の解釈を深め、意見を交わしていく。

モノや情報には囲まれていても、みんなどこかに寂しさを抱えている時代。私たちがクリエーターに求められるコミュニケーション力とは、どんなものなのだろう。あたりまえのことをもう一度確認すること。実際の場所に行つて自分で体験して

感覚を磨き、反芻しながら表現していくこと。そんなフィールドワークがとても大切なのではと感じている。

家族や友達、共感してくださるお客さまの顔を思い浮かべながら、わくわくする気持ちになつてもらえるようなリアリティーのある企画やデザインをつくりたいと、日々考えている。



ほしか・るりこ 企画・デザイン会社「ルリコプランニング」社長。
1975年生まれ。神戸で育ち、明石高校美術科を経て武蔵野美術大学彫刻学科卒。東京の都市計画コンサルタント会社に勤務後、2004年に神戸で同社を設立。神戸ビーフの世界広報戦略、神戸市のデザイン都市戦略などにも携わる。

随想